

部課名		文化スポーツ振興部文化振興課											
課の使命		誰もが文化芸術に親しむことができるよう、市民の文化芸術活動の振興や、魅力ある文化芸術とふれあえる環境づくりに取り組みます。そのための環境整備、鑑賞機会の創出、活動支援、情報発信を行います。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
1	-	(仮称)町田市文化芸術のまちづくり基本計画策定作業	(仮称)町田市文化芸術のまちづくり基本計画の策定に向け、市民を対象としたアンケート調査や、子どもからの意見収集を行い、骨子(案)を作成します。	計画策定の進捗	骨子(案)完了	○	7月の第1回庁内検討委員会・懇談会において、骨子(案)の作成に向け、現状と課題、計画の考え方を整理しました。 また、骨子(案)作成の基礎調査として、7～8月には各子どもセンターにて子どもから聞き取り方式により意見収集を、9月には郵送により市民意識調査を実施しました。	子どもからの意見収集・市民意識調査結果や、第2回・第3回庁内検討委員会、懇談会からの意見等を踏まえ、計画骨子(案)を作成完了します。子どもからの意見をとりまとめ、各子どもセンターに掲示して共有します。	7～8月に各子どもセンターでの聞き取り調査を、9月に市民意識調査を実施し、調査結果は市ホームページや各子どもセンターに掲示し、共有しました。これらの調査結果や7月～3月にかけて開催した庁内検討委員会及び懇談会の意見等を踏まえ、計画骨子(案)を作成完了しました。骨子(案)作成に際しては、他部署と連携し、2024年度に作成する素案に掲載する事業を想定しながら作成しました。また、市民や町田を訪れる人に当計画を知ってもらえるよう、概要版を手に取りやすい絵本の形式として作成することとし、2024年度から作成に着手する予定だったところを前倒しで取組みました。	骨子(案)完了	C	C:目標水準を達成したためです。	当計画や町田文化芸術を広く市民に周知する必要があります。町田市における文化芸術ホールのあり方については、まちづくり全体との調整が必要のため、別途検討する必要があります。当計画の策定と平行して、2024年度から文化芸術ホールのあり方の詳細について、検討を進めていきます。
2	重点 事業 プラン	町田市がもつ工芸作品のPR	①市民が工芸作品に接し「パークミュージアム」への期待が高まるような講座および関連企画を開催します。 ②(仮称)国際工芸美術館開館に向けて、市内・地域の団体と連携した取り組みや展覧会を実施します。	①イベント回数 ②展覧会回数	①49回 ②2回	○	①工芸の魅力を感じていただける市民向けの体験講座を、合計で31回実施しました。 ②12～2月にかけて実施する展覧会の準備を進めています。	博物館は、秋の市民向けの体験講座に加え、町田華道協会や多摩クラフト協会とのコラボで行う展覧会を実施します。	①体験講座を合計52回実施しました。今年度は新たに市内の事業者と連携して、博物館の所蔵作品をモチーフにしたペーパークラフトを用意し、来場者に組み立てていただく講座を実施しました。また、昨年度に実施した市内工房調査に基づき、市内在住の工芸作家による新講座も企画・実施しました。 ②館外展示は合計2回実施しました。中央図書館での展示は町田華道協会と共催し、国際版画美術館での展示は多摩地域の作家団体である多摩クラフト協会と連携して開催しました。また展覧会の案内はがきデザインコンペでは、町田市内および近郊の学校に積極的に働きかけた結果、昨年度を46件も上回る応募数がありました。	①52回 ②2回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	(仮称)国際工芸美術館開館に向けた気運醸成のため、市内外の団体との新たな連携による事業を企画します。また、市民が工芸作品に接し「パークミュージアム」への期待が高まるような展示やイベントを実施していきます。
3	-	収蔵作品データの整理および電子化	博物館収蔵作品のインターネット公開に向けて、作品の写真撮影を行い、キャプション(作品の情報及び解説をまとめたもの)を作成します。また、作品データを整理し、電子化します。	収蔵作品データを整理した数	150件	○	ガラス作品47件、陶磁器作品35件、計82件について、写真の撮影および電子化を行い、キャプションをつけたうえで収蔵品管理システムに登録しました。くわえて、それらの作品データについても、2020年度までに行った悉皆調査に基づき、作品情報や過去の展覧会出品歴を精査しました。	上半期に引き続き、作品の写真撮影と情報の精査を並行して行い、インターネット公開に向けた作品データの整理を進めます。	ガラス作品51件、陶磁器作品105件、計156件について、写真の撮影および電子化を行い、キャプションをつけたうえで収蔵品管理システムに登録しました。また、将来的な多言語対応に備え、約40件の作品については英語表記での登録も行いました。さらに、登録した情報は今年度新たに登録した博物館公式Instagramで公開を始めています。	156件	C	C:目標水準を達成したためです。	作品のインターネット公開に向けて、引き続き作品情報を精査しながら電子化を行います。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	-	デジタルを活用した文化芸術の情報発信	町田市の文化芸術情報や、博物館の体験講座や展覧会の情報を周知するため、SNS(Instagram・ <del>Twitter</del> →X(旧Twitter))を活用して情報発信します。 ※サービスの名称が変わったため、修正しました。	SNS(Instagram・ <del>Twitter</del> →X(旧Twitter))のフォロワー数 ※サービスの名称が変わったため、修正しました。	年度当初と比較して5%増	◎	SNSのフォロワー数が6.6%増加しました。 Instagramについては、昨年度同期間と比較して投稿回数を増やし、また、リール機能及びストーリー機能を活用してフォロワー内外の目につく機会が増えるよう工夫しました。 X(旧Twitter)については、博物館所蔵作品の魅力を紹介する様々なコンテンツを発信しつつ、イベント毎に来場者へフォローの呼びかけを行いました。 その結果、目標以上にフォロワーを増やすことができました。	現在のフォロワーを維持しつつ、新規フォロワーを獲得していくため、魅力あるコンテンツの制作および投稿を継続していきます。	SNSのフォロワー数が16.2%増加しました。 Instagramについては、投稿回数を増やし、リール機能及びストーリー機能を活用したほか、下半期には、新たに博物館が所蔵する作品を紹介するアカウントを立ち上げました。 X(旧Twitter)については、4コマ漫画やアニメーションなど新たなコンテンツを制作・発信することで、より広い層にフォローしていただけるよう工夫しました。さらに、博物館公式XのフォロワーをInstagramに誘導するようなポストを頻繁に行いました。 以上の結果、目標以上にフォロワーを増やすことができました。	16.2%増	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	文化芸術情報の掲載を依頼する団体が固定化しているため、情報を知りたい人だけでなく、発信したい人に向けても、アカウントを周知していく必要があります。 また、博物館の情報をもっと発信していくため、英語など多言語での投稿も行うようにします。
5	-	ワーク・ライブ・バランスの実現	業務の負荷が特定の職員に偏らないよう、課内で業務スケジュールを共有し、管理する意識を高めます。それにより、業務を効率化し、時間外の削減に繋がります。また、各取組の意図や達成状況を確認するため、4半期に1度の振り返りを行います。 なお、業務の形態に合わせ、市庁舎と博物館でそれぞれ以下の取組を行います。 ①【全員】年次有給休暇取得率の改善を図ります。 ②【市庁舎】はテレワークを活用し、業務の進捗管理をします。 ③【博物館】業務進捗管理のための定例会議を実施します。	①【全員】年次有給休暇取得日数 ②【市庁舎】全員が月に2回以上テレワークを実施した月数 ③【博物館】業務進捗管理のための定例会議を行った回数	①13日/人 ②9回 ③47回	○	①1人あたりの年次有給休暇取得日数は7日でした。 ②全員が月に2日以上テレワークを実施した月数は3回でした。 ③業務進捗を管理するための会議を基本的に週1回のペースで合計25回行いました。 ①～③について、進捗管理表を用いて各職員のスケジュール管理の意識づけを行うことで、業務効率化及び時間外削減の取組を推進しました。また、四半期ごとの振り返り及び達成状況の確認を行いました。	①年次有給休暇取得率の低い担当業務職員について声掛けを行い、取得日数の底上げを図ります。 ②引き続き業務の効率化及び平準化に取り組みながら、テレワーク実施日数の確保を促します。 ③特定の職員に業務が偏ることがないように、業務を共有するための会議を継続して行います。	四半期ごとの振り返り実施時に、各職員に対して、進捗管理表を用いたスケジュール管理の徹底を呼びかけ、業務効率化及び時間外削減の取組を推進しました。特に下半期は、次月より先の予定も入力しておくことで、中長期的なテレワーク実施や休暇取得に繋がりました。博物館の定例会議については、各職員が抱えている業務の内容を共有し、お互いにフォローできる体制を構築したことで、業務の平準化が実現しました。	①14日/人 ②7回 ③48回	C	C:テレワーク実施月数は目標に2回及ばなかったものの、年次有給休暇日数及び業務進捗管理のための定例会議開催が目標値をともに上回ったためです。	各職員のスケジュール管理意識は向上したものの、職員同士の調整が不十分であったことが、一部の目標達成に至らなかった原因です。引き続き業務の進捗状況を共有する場を確保しながら、お互いがフォローし合える環境作りに努めます。

部課名		文化スポーツ振興部文化振興課パークミュージアム担当											
課の使命		町田市市中心市街地に隣接する緑豊かな都市公園である芹ヶ谷公園と(仮称)国際工芸美術館・国際版画美術館等を整備、一体的に運営するプロジェクト「芹ヶ谷公園芸術の杜プロジェクト パークミュージアム」によって、まさに新たな賑わいと交流を生みだすとともに、町田市全体の魅力向上、ブランド価値の向上を目指します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定				中間確認				年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	芹ヶ谷公園”芸術の杜”パークミュージアム「美術エリア」の整備	①(仮称)国際工芸美術館について、整備工事を実施します。 ②(仮称)国際工芸美術館の開館時には(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟が完成し、切れ目なく版画工房が利用できるよう、(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の基本・実施設計を進めます。	芹ヶ谷公園”芸術の杜”パークミュージアム「美術エリア」整備の進捗状況	①(仮称)国際工芸美術館整備工事の実施 ②(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟基本・実施設計の完了	△	①整備工事着手に向け、契約手続きを進めましたが、入札が中止となり、スケジュールに遅れが出ています。そのため事業スケジュールを見直し、今年度の整備工事着手に向けて契約手続きを進めています。 ②地域の方々、版画工房・アトリエの利用者や版画・工芸・教育普及の有識者、公園を利用する親子などの意見を聞きながら、基本設計を完了させ、実施設計を進めました。	①12月の整備工事契約に向けて、契約手続きを進めます。 ②地域の方々や関係者の方等へ丁寧な説明を行いながら、引き続き、実施設計を進めます。	①整備工事着手に向け、契約手続きを進めましたが、建築資材の高騰に加え、技術者・職人不足により、入札やプロポーザルが中止となり、今年度内に整備工事の着手には至りませんでした。しかし、適切な工事の発注にむけて、設計図書を客観的な視点で検証し、工事費や工期、工法等が適切であるかを評価・見直しをするコンストラクションマネジメント業務を実施しました。 ②地域の方々、版画工房・アトリエの利用者や版画・工芸・教育普及の有識者、公園を利用する親子などの意見を聞きながら、基本・実施設計を完了させました。	①(仮称)国際工芸美術館実施設計完了 ②(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟基本・実施設計の完了	D	D:取り組みましたが、成果が不十分のためです。	①②工事着手前には近隣の方々へ工事説明会を行うなど、引き続き丁寧な説明しながら、整備工事を進める必要があります。
2	重点事業プラン	芹ヶ谷公園”芸術の杜”パークミュージアム実現に向けた機運醸成の取組み	芹ヶ谷公園がパークミュージアムとして町田の多様な文化芸術活動の拠点となり、より多くの人に愛される公園となるように育て、盛り上げていくための取組みを進めます。	イベント実施時の満足度	80%	◎	8月19日に、“パークミュージアム”の実現を目指したイベント「FuturePark Lab 2023Summer」を開催し、市内大学や事業者、地域の団体、市役所の他部署の取組等と連携したプログラムを実施しました。また、町田市がホストタウンに登録しているインドネシア関連のイベントも実施しました。当日は多くの方にご来園いただき、文化芸術活動拠点としての公園の新たな活用方法や魅力を伝えることができるいい機会となりました。なお、イベント参加者を対象に行ったアンケートの満足度は100%でした。	11月、12月、3月にも、市内大学や事業者等とコラボレーションしながら、「Future Park Lab」を実施する予定です。また、各イベントでは、参加者を対象に、満足度アンケートを実施する予定です。	市がホストタウンに登録しているインドネシアの影絵等を行った、8月の「Future Park Lab」に引き続き、11、12、3月にも開催しました。11月は市内就労支援施設による、動物絵画の屋外展示等を行いました。12月はまちなかの回遊性の向上を目的とした、町田ゆかりのアーティストによる中心市街地のアート作品を描いた屋外展示に加え、町田を題材としたフォトコンテストを行いました。3月は市内大学によるライトアップ等を行いました。その他にも、NPO法人団体の他、庁内との連携による企画を行いました。いずれのイベントも多くの方が来園し、多様な文化芸術の活動拠点としての公園の新たな活用方法や、芹ヶ谷公園の魅力伝えることができました。結果、イベント参加者を対象に行ったアンケートの満足度は99.0%でした。	99.0%	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。 ・引き続き地域の方々等との連携を強く、関係を構築していくことで、将来「パークミュージアム」として多くの方に愛される公園となるよう、「Future Park Lab」を継続して進めていきます。 ・より市民が文化芸術・自然に触れることができるよう、プレスリリース等、各広報媒体をさらに効果的に活用し、計画的な情報発信を強化していく必要があります。	
3	-	時間外勤務削減に向けた課内共有	定期的担当間の業務状況の共有と確認を行い、業務の効率化を図ることで、時間外勤務の削減に努めます。	課内共有の場の設定回数	4回	◎	4月に業務内容の整理と割り振りを行い、担当間の業務の平準化及び情報共有のための打ち合わせを月に1回、計6回行いました。	引き続き、課内で情報共有をする中で、業務の平準化をはかり、時間外勤務時間の削減等に努めます。	(仮称)国際工芸美術館の整備スケジュール変更に伴う対応等により時間外勤務時間の削減には至りませんでした。時間外削減に向けた効率的に行うため、課内共有の場を設け、各担当業務の進捗状況、課題を都度共有し、1年を通じて、効率的に業務を遂行することができました。	12回	C	C:目標水準を達成したためです。 ・来年度も引き続き、時間外勤務削減に向けた効率的・効果的な取り組みを進めていく必要があります。	

部課名		文化スポーツ振興部スポーツ振興課											
課の使命		スポーツをする場所や機会を提供するとともに、スポーツ支援活動を支えることで、市民の健康で明るく豊かな生活を実現します。また、身近な生活の中でトップレベルのスポーツ等に親しむことができる環境を整え、活力ある社会を構築します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	(仮称)町田木曾山崎パラアリーナ整備	2013年度に策定した「町田市木曾山崎団地地区まちづくり構想」において、健康増進関連拠点として位置づけられている旧忠生第六小学校用地に、「(仮称)町田木曾山崎パラアリーナ」を整備するための検討等を進めるとともに、2024年度に実施予定の事業者公募に向けて、要求水準書の作成を行います。	整備方針等の検討及び要求水準書作成	整備方針等の検討及び要求水準書作成完了	○	①民間事業者及び関係団体へのヒアリングや現地視察を実施し、導入機能や管理運営方法などに関する意見を収集しました。その内容を踏まえて、整備方針等の検討を行いました。 ②町田市バドミントン連盟と日本パラバドミントン連盟と連携して、市内の小学生を対象としたパラバドミントン体験会を9回実施しました。また、総合体育館で開催した、「チャレンジマッスル」において、東京都と連携してAIボッチャのブース出展や車いすラグビーの日本代表選手をゲストに招きました。	①引き続き、整備方針等の検討を行い、PPP/PFI導入可能性調査及び事業者公募に向けた要求水準書の作成を進めます。 ②引き続き、関係団体と連携し、パラスポーツの理解促進に向けたイベントを実施します。下半期は、ブラインドサッカー協会と連携して体験会等のイベントを実施します。	①民間事業者及び関係団体へのヒアリング等を実施し、導入機能や管理運営方法などに関する意見を収集するとともに、その内容を踏まえて、PPP/PFI導入可能性調査を実施し、整備方針を策定しました。加えて、2024年度に実施する事業者公募に向けて、学識経験者を含めた選考委員会を設置し、要求水準書の作成を行いました。 ②関係団体等と連携・協力し、パラスポーツの普及啓発及び理解促進に向けて、関係団体と連携して4事業実施しました。具体的には、サポートシティになっている日本パラバドミントン連盟や日本ブラインドサッカー協会と体験会を開催しました。また、ホストタウン相手国パラバドミントンインドネシア代表来日に際しては市内の小学校を対象にパラバドミントン体験会を実施する等、積極的に取り組みを推進しました。	整備方針等の作成及び要求水準書等の作成	C	C:目標水準を達成したためです。	②引き続き、関係団体等と連携・協力し、パラスポーツの普及啓発及び理解促進、パラリンピックのレガシー継承に向けて、イベントや体験会等を実施します。
2	重点事業プラン	スポーツマップの作成・配布	子どもにスポーツの楽しさや魅力を伝えるだけでなく、保護者に向けてもスポーツ情報を発信するため、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)の協力を得ながら、地域のスポーツが楽しめる場所やスポーツ情報がまとめられた地図を作成し、地区内の小学校に配布します。	スポーツマップの作成地区数	3地区(累計10地区)	○	市内全10地区の完成に向けて、作成した(案)をもとに、掲載予定施設の施設管理者と調整し、残り3地区のスポーツマップを作成し、区域内の小学1～3年生に配布します。また、過年度に作成した7地区(南地区、高ヶ坂成瀬地区、相原地区、小山・小山村丘地区、町田第一地区、町田第二地区、玉川学園・南大谷地区)については、時点更新の修正をし、区域内の新1年生を対象に配布します。	地域が楽しめる場所やスポーツ情報を掲載したスポーツマップを3地区(木曾地区、忠生地区、鶴川地区)作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携を図り、区域内の小学校16校に配布しました。この3地区の作成によって、市内全10地区のスポーツマップが完成しました。また、過年度に作成した7地区(南地区、高ヶ坂成瀬地区、相原地区、小山・小山村丘地区、町田第一地区、町田第二地区、玉川学園・南大谷地区)については、時点更新の修正をし、区域内の新1年生を対象に配布しました。	地域が楽しめる場所やスポーツ情報を掲載したスポーツマップを3地区(木曾地区、忠生地区、鶴川地区)作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携を図り、区域内の小学校16校に配布しました。この3地区の作成によって、市内全10地区のスポーツマップが完成しました。また、過年度に作成した7地区(南地区、高ヶ坂成瀬地区、相原地区、小山・小山村丘地区、町田第一地区、町田第二地区、玉川学園・南大谷地区)については、時点更新の修正をし、区域内の新1年生を対象に配布しました。	3地区(累計10地区)	C	C:目標水準を達成したためです。	今後も時点更新などの対応やさらなる新規情報の追加に向けて、関係各課や施設管理者等と調整を進めていきます。また、引き続き、印刷等については、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)の協力を得ながら、進めていきます。
3	重点事業プラン	運動関連動画等の情報発信	地域スポーツクラブや指定管理者の協力を得ながら、スポーツ実施率向上のため、市民の誰もが、いつでも、どこでもスポーツに参加できるように、健康増進や体力向上を目的とした自宅での運動動画等の作成や情報発信を行います。	運動関連動画等の発信数	40件	○	自宅でできる運動動画等作成について、下半期の公開に向けて、地域スポーツクラブ等と打ち合わせを行い、動画作成を進めました。また、各指定管理者と調整を行い、FacebookやInstagram等で、26件の運動関連動画等の情報発信を行いました。	引き続き、地域スポーツクラブ及び指定管理者と連携し、地域スポーツクラブ4件、指定管理者18件の運動関連動画等を作成し、情報発信を行います。	地域スポーツクラブ及び指定管理者と連携し、運動関連動画を作成し、町田市Youtubeチャンネルに新規動画を5件公開しました。公開した動画については、ツイッターや広報紙「みんなの健康だより特別号」等にホームページのURLやQRコードを掲載するなど、情報発信を行いました。また、各指定管理者においても、FacebookやInstagram等で、55件の運動関連動画等の情報発信を行うことで、当初の目標値の約50%増となる、計60件の情報発信を行いました。	60件	B	B:当初の目標を上回る成果が上ったためです。	多様なスポーツ機会を提供するため、引き続き、地域スポーツクラブ及び指定管理者と連携し、運動関連動画等の作成、情報発信を行います。

順位	計画類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
4	重点事業プラン	ホームタウンチームの支援	ホームタウンチームを周知するため、チームと連携してホームゲーム情報等の発信や <del>ツイッタ</del> X(旧ツイッター)・広報・ホームページ・横断幕掲出等のPR活動を積極的に行います。 <del>※ツイッターについて正式名称に修正いたしました。</del>	①広報等周知活動の取組回数 ②ホームタウンチーム関連 <del>ツイ</del> Posts(ポスト)のインプレッション数( <del>ツイ</del> インプレッションX(旧ツイッター)の画面上に表示された回数)	①180回 ②平均1,200インプレッション	○	①引き続き、広報まちだやホームページでの周知活動を行い、ホームタウンチームの活動に合わせてX(旧ツイッター)を活用した情報発信も積極的に行っていきます。また、リーグ優勝を目指すホームタウンチーム2チームを応援するため、ペDESTリアンデッキの装飾等で機運醸成を図り、市内の盛り上げに繋がります。 ②X(旧ツイッター)でのホームタウンチームの周知を計118回行い、平均1,247インプレッションを獲得しました。	①引き続き、広報まちだやホームページでの周知活動を行い、ホームタウンチームの活動に合わせてX(旧ツイッター)を活用した情報発信も積極的に行っていきます。また、リーグ優勝を目指すホームタウンチーム2チームを応援するため、ペDESTリアンデッキの装飾等で機運醸成を図り、市内の盛り上げに繋がります。 ②X(旧ツイッター)でのホームタウンチームの周知を計186回行い、当初の目標値の約70%増となる平均2,032インプレッションを獲得しました。	①ホームタウンチームのPRのため、広報まちだやホームページ、応援イベントの開催、X(旧ツイッター)での情報発信、さらに、FC町田ゼルビアのリーグ優勝に伴った、懸垂幕や横断幕の設置、Fリーグファイナルシーズン町田ラウンドに向けて応援ウィークを開催する等、当初の目標値の約30%増となる合計235回周知活動を行いました。 ②X(旧ツイッター)でのホームタウンチームの周知を計186回行い、当初の目標値の約70%増となる平均2,032インプレッションを獲得しました。	①235回 ②平均2,032インプレッション	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、広報まちだやホームページ(X(旧ツイッター))での周知活動を積極的に行います。加えて、FC町田ゼルビアのJ1昇格やASVベスカドーラ町田のリーグ準優勝等をチャンスと捉えて、さらなる周知活動に取り組みしていきます。
5	個別計画	スポーツボランティア活動支援	スポーツを「支える」人材を支援するため、市民ボランティア「まちだサポーターズ」が活躍できる機会を提供するとともに、研修会等を実施します。	「まちだサポーターズ」延べ活動人数	2,600人	○	ホームタウンチームのホームゲームでの活動や町田さくらまつり等のスポーツ以外のイベント、また、発足10周年記念の自主事業等を実施し、第1四半期(4月～6月)と第2四半期(7月～9月)で延べ1,673人が活動しました。	引き続き、ホームタウンチームのホームゲームでの活動やスポーツ以外のイベントでも、まちだサポーターズの活動機会が増えるよう積極的に呼びかけを行います。また、まちだサポーターズのボランティア活動への参加意欲向上に向けて支援を進めていきます。	発足10周年記念の自主事業等のサポートや、研修会等を実施し、活動意欲の維持向上を図った結果、活動人数が当初の想定より大幅に増加しました。具体的には、第3四半期(10月～12月)は、ホームタウンチームのホームゲームでの活動やFリーグ主催のファイナルシーズン・町田ラウンド等のスポーツイベントに加えて、スポーツ以外の時代祭りをはじめとするイベントが多くあり、1,029人が活動しました。また、第4四半期(1月～3月)では、ホームタウンチームのホームゲームでの活動等、682人が活動し、年間で当初の目標値の約30%増となる延べ3,384人が活動しました。	3,384人	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	活動意欲の維持・向上を図るため、研修会を実施します。引き続き活動機会の充実、新規会員の獲得に向けた活動を支援します。
6	個別計画	トップアスリートとの交流の活性化	市民のスポーツへの関心を高めるため、トップアスリートとの交流機会を創出します。	トップアスリートとの交流機会の回数	9回	○	予定していたフェンシング、ハンドボール、バレーボールの教室事業や読売巨人軍の町田市フェスタ、パラバドミントン体験会を実施しました。加えて、ラグビー施設見学交流事業や総合体育館で開催した「チャレンジマッスル」で、車いすラグビーの日本代表選手による体験ブースを設置する等、上半期で計7回の交流機会を創出しました。	下半期に予定されている事業の実施に向けて、指定管理者や関係団体と連携し、トップアスリートとの交流機会を創出していきます。	年間を通して各スポーツ施設において、サッカーのクリニックやカヌーの体験会等を実施しました。加えて、パラバドミントンインドネシア代表との交流イベントや読売巨人軍現役選手の小学校訪問を実施するなど、年間で当初の目標値の約50%増となる計14回の交流機会を創出しました。	14回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、市民のスポーツへの関心を高めるため、関係団体や指定管理者等と連携・協力し、トップアスリートとの交流機会を創出します。
7	個別計画	パラスポーツの理解促進・普及啓発	多様なスポーツへの理解を深め、スポーツ活動を推進するため、パラスポーツ教室や体験会等を実施します。	パラスポーツ関連事業参加人数	2,100人	◎	パラバドミントン体験会や総合体育館で開催した「チャレンジマッスル」等を予定通り実施したことに加え、「こどもスポーツチャレンジ」では、パラスポーツの体験ブースを設置する等、上半期で計2,007人が参加しました。	引き続き、予定している学校でパラバドミントン体験会を実施し、スポーツ推進委員の事業も行います。また、ブラインドサッカーの日本選手権が3月に開催されるため、主催者と連携して周知に向けた体験会等イベントを実施します。	パラバドミントン体験会やスポーツ推進委員の事業を行いました。さらに、パラバドミントンインドネシア代表との交流イベントや、ブラインドサッカー日本選手権開催の際の体験会など、年間で当初の目標値の約40%増となる計3,080人が参加しました。	3,080人	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、パラバドミントン体験会やスポーツ推進委員の事業を行っています。加えて、パラスポーツ団体と連携し、体験会や大会の開催に向けて進めていきます。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
8	-	ワークライフ バランスの実現	業務分担の平準化や、業務の効率化、職員間の 情報共有・連携の強化に努め、年次有給休暇の取 得しやすい職場風土を醸成します。	年次有給休暇取得日数	14日/人	○	<p>特定の職員へ業務が集中しないよう、職員間の情報共有を図り、業務分担の平準化に努めました。</p> <p>その結果、当初計画していた職員一人当たりの休暇取得日数(上半期4.6日※夏期休暇5日を除く)を上回る、5.4日を取得しました。</p>	<p>引き続き、特定の職員へ業務が集中しないよう、職員間の情報共有を図り、業務分担の平準化に努めるとともに、年次有給休暇の取得しやすい職場風土を醸成し、ワークライフバランスの実現を目指します。</p>	<p>ビジネスチャット等を活用した職員間の情報共有を図り、特定の職員に業務が偏らない体制づくりを行った結果、積極的な年次有給休暇の取得につながりました。</p> <p>職員1人あたりの年次有給休暇取得日数は、当初の目標値の3%増となる14.5日となりました。</p>	14.5日	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、業務の効率化や職員間の情報共有・連携の強化等に努め、ワークライフバランスの実現を目指します。

部課名		文化スポーツ振興部 国際版画美術館											
課の使命		<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての来館者に対して優れた美術作品に触れる機会や創作、発表の場を提供し、美術に親しむことの喜びや感動、やすらぎをもたらします。</li> <li>貴重な文化財である版画作品の収集・保存を通じて、市民の財産としての版画の価値を未来に伝えるとともに、専門性に裏付けられた版画文化に関する良質な情報発信を行います。</li> <li>町田市の文化振興および文化・芸術都市としてのブランドイメージの向上に寄与します。</li> </ul>											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
1	-	魅力的な展覧会の開催	「自然という書物」展や「揚州周延」展など魅力的な企画展を実施するとともに、シャトルバスの運行や関連催事の実施によって、来館者の確保に努めます。なお、これまで「ミニ企画展」としてきた常設展示室での展覧会は、企画性が高い内容であることを明確にして興味を喚起するため、2023年度から「特集展示」に名称を変更します。	企画展・特集展示の観覧者数	100,000 <sup>99,94</sup> 人 ※目標値について、端数の調整のため、繰り上げ処理をしました。	○	「自然という書物」展や「出来事との距離」展、「版画家たちの世界旅行」展の3つの企画展と2つの特集展示を実施しました。特に「自然という書物」展は多くのメディアで紹介され、図録も完売するなど注目度の高い展覧会となりました。観覧者数は企画展の目標値22,257人に対して20,774人、特集展示の目標値11,700人に対して21,550人となり、上半期全体では42,324人と目標の33,957人を超えました。なお、シャトルバスは、定員に対する利用率が2022年度と比較し13.3%増えており、観覧者の獲得に寄与しています。	100,000人を目標に「揚州周延」「小中学校作品展」など企画展を4回、特集展示を3回開催します。企画展「揚州周延」「版画の青春」の開催期間中に、シャトルバスを運行し、より多くの方がご利用いただけるようSNS等で宣伝します。	『自然という書物』『出来事との距離』『版画家たちの世界旅行』『揚州周延』『新収蔵作品展』『第37回町田市公立小中学校作品展』『版画の青春』の7つの企画展と5つの特集展示を実施しました。観覧者数は目標値を20%上回る120,000人となり、目標を達成することができました。各企画展ともにTV放映や新聞に掲載されるなど、メディアに注目される展覧会となりました。また、シャトルバスについては、定員に対する利用率は49.0%となり、2022年度より6.1ポイントの増加となりました。	120,000人	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き魅力ある展覧会を開催するとともに、展覧会の魅力を更に周知できるようにSNS等により当館の情報を積極的に広めていきます。
2	-	SNSによる情報発信	美術を楽しむ人を増やすために、SNSで情報の発信を積極的に行います。	SNS発信回数	350回	○	発信回数183回(X(旧Twitter)103回、instagram80回)であり、目標値の半数の175回以上の発信ができました。	展覧会の作品解説を充実させるとともに、ミュージアムショップの商品やイベントの告知、シャトルバスの運行情報など、さまざまな版画美術館の魅力や情報を発信していきます。	年間を通し作品の解説やミュージアムグッズ情報・イベントの告知・シャトルバス運行情報を発信することで回数を伸ばすことができました。	400回	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、お客さまが興味を持ち、美術館に足を運ぶようになるような情報発信をするよう努めます。
3	-	収蔵品データの電子化・作品調査	収蔵品の効果的・効率的な活用を行うために、512件の重要物品の情報についてデータの電子化を進めます。	収蔵品(重要物品)のデータ作成件数	35件	○	作品と資料を照合させる調査をし、35件中26件の入力が終わりました。	引き続き順次データの入力を進めます。	年間を通して、作品と資料の照合させる調査を行い、目標の35件の入力がありました。	35件	C	C:目標水準を達成したためです。	今後も新規収蔵品のデータ電子化を行います。
4	-	業務の効率化	事前にチャットで情報共有を行うこと等により、課内で行っている会議の時間を短縮し、業務の効率化を図ります。また、定期的に達成状況を確認し、課内で共有します。	会議時間の1時間以内終了率	80%	○	開催した会議26件のうち、1時間以内に終了した割合は96%です。各担当者の報告を日々チャットを活用して行うことにより、会議時間を短縮しました。	引き続き、達成状況を共有しつつ、チャットを活用し、細かくコミュニケーションをとることで会議の長時間化を抑えます。	会議の議題について日頃から細かく確認しあうことで、1時間を超える会議は、年間を通し4回にとどめることができ、年間での達成率は91%となりました。	91%	C	C:目標水準を達成したためです。	今後も、チャット等の活用が難しい会議を一度に行うのではなく、日々細かく業務を確認し合う体制の構築に努めます。